

## 平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【研修レポート】

- 1 実施地区：釧路地区
- 2 研修者氏名：廣瀬文彦（白糠町立白糠小学校）
- 3 研修実施日：平成25年11月28日（木）～29日（金）
- 4 研修先：神奈川県平塚市教育委員会、平塚市立相模小学校
- 5 研修目的：平塚市の小学校外国語活動の取組の視察
- 6 キーワード：小学校外国語活動、教員研修、ガイドライン、活動プラン

# 平塚市の小学校外国語活動

## 1 はじめに

平成23年4月から新学習指導要領が全面実施となり、国際理解教育の一環として小学校外国語活動が加わりスタートした。その導入に当たっては、初めての外国語活動に対する教師の不安やカリキュラムの組み方、学校による取組のばらつきなど未だ課題も多い。今回、これらの課題や外国語活動の充実に対して市を挙げて積極的に取り組んでいる平塚市の取組について学ぶ機会を与えていただいた。

## 2 平塚市の概要

JR東海道線を東京からの普通電車で約1時間、神奈川県ほぼ中央の相模平野の南部に位置する人口約26万人の中核都市である。江戸時代には、東海道五十三次の宿場町として栄え、現在は自動車関連の高い生産力をもった工業をはじめ、農業、漁業、商業がバランスよく調和した街である。市立小学校28校、私立中学校15校をはじめ、県立の中等教育学校や8校の高等学校、2つの大学をかかえる文教の街でもある。



## 3 平塚市教育委員会の取組から・・・子どもも教師も笑顔になれる外国語活動

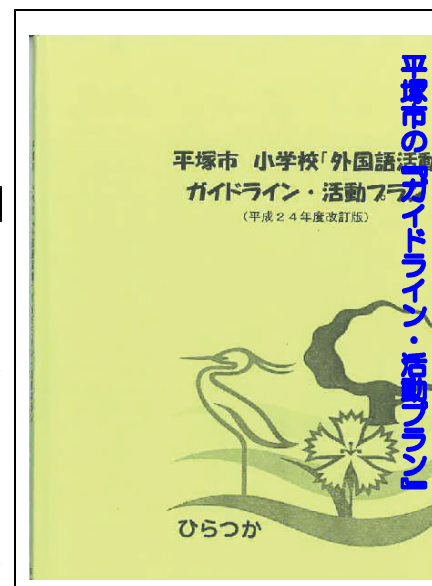
平塚市では、外国語活動が各小学校で無理なく円滑に導入されるよう、教育委員会が「外国語活動推進事業」を立ち上げ、新学習指導要領の移行期より各校への様々な支援や取組を行っている。以下は、その主な取組である。

### 取組 1 校長会・教頭会との連携

- ・校長会・教頭会において機会あるごとに外国語活動の目指すものなどについて説明。
- ・校長会・教頭会代表と「小学校外国語活動に係る連絡協議会」を立ち上げ、移行期からの進め方などを協議。

### 取組 2 『ガイドライン・活動プラン』の作成・配付

- ・各校からのアンケート結果などを参考にしながら連絡協議会で検討し、市としての目安となる教員向けの『ガイドライン』とそれに沿った『活動プラン』を作成し、教材とともに小学校全教員に配付している。（右は、平成25年3月改訂版）
- ・市内全28校が、全てこれによって授業を進め、学校や学級の児童の実態に合わせながらも学校や教師ごとに指導方針が大きく変わらないようにし、どの学校、どの教師も同じように授業をできるようにしている。



『平塚市 小学校「外国語活動」ガイドライン』より (抜粋)

小学校外国語活動の目指すもの(平塚市の基本的な考え方)	小学校外国語活動で育みたい力
<p>小学校教育課程の中の外国語活動である。特別な時間ではなく、他の教育活動と向様に学校教育目標との関連をもって実施する。相手が言っていることを推測し、子どもも学びにあわせて、聞く活動から入り、相手が言っていることを推測し、聞きながら理解しようとする態度を大切にする。英会話の表現を覚えたり練習したりするコミュニケーションとは表面的な言葉のやりとりではなく、意味のやりとり、気持ちを分かちあうことが重要である。相手の思いを理解したい、自分の思いを伝えたい、心が動かしながら言葉を使い、相手の思いが伝わる場面、伝え合う喜び、人と関わりながらコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたい。言葉より英語は数多くあるコミュニケーションの手段のうちのひとつである。言葉より先に「知りたい、分かってほしい!」「伝えたい、分かってほしい!」という思いがあり、その気持ちを伝えるために、言葉があるということを感じさせるとともに、言葉の面白さや豊かさに気付かせ、それを大切に扱う気持ちを育てたい。</p>	<p>人やもの・ことに対して興味・関心をもち、人と関わろうとする姿勢・力 相手の話を聞いて、想像・推測し、受け止め、理解しようとする姿勢・力 知っている言葉や態度で、反応したり、自分の思いを伝えたりしようとする姿勢・力 日本や外国の言語や文化について、理解を深め、それを大切に扱い、尊重しようとする姿勢・力</p>
<p>平塚市の小学校外国語活動の目標 英語を通じて、人との関わりを大切にして伝え合う楽しさを味わいながら、分からないことでもあきらめずに推測して理解しようしたり、自分の思いを態度や言葉で伝えようしたりする体験を積み重ねることで、コミュニケーションの素地を養う。</p>	

**取組** 研修の推進

- ・教師が、自信をもって授業を展開することができるようにするため、外国語活動の導入期(平成21～23年度)に「スタートアップ研修」「ステップアップ研修」「ブラッシュアップ研修」を実施した。教育委員会指導主事が市内全小学校(28校)を訪問し、全教員を対象に『活動プラン』を説明し、さらに実際の活動を通して教師の理解を図った。
- ・また、「サマー研修」を行い、3年間で同じ内容を全小学校教員が研修して、理念の共有化と共通理解を図るとともに、指導内容・方法等についても学んだ。
- ・スーパーバイザー(東京学芸大学:粕谷恭子教授、駒沢女子大学:太田洋教授)を迎え、平塚市の取組や『ガイドライン・活動プラン』編集への助言、各学校を巡っての「授業の進め方やポイント」などの研修推進に当たっていただいた。
- ・平成25年度は、「小学校外国語活動実践研修」と「サマー研修」を行い、実践力向上を図る取組を継続している。

**取組** 中学校との連携

- ・『ガイドライン・活動プラン』を中学校英語科教員にも配付するとともに、小学校教員対象の各研修への中学校英語科教員の参加も進めている。

**4 学校視察から・・・『ガイドライン・活動プラン』に基づいた授業**

- (1) 視察校:神奈川県平塚市立相模小学校(校長:大野かおり、児童数413名、15学級)
- (2) 参観授業(6年2組、指導者:楠瀬博之教諭)

「お仕事いろいろ」の授業は、職業、建物を題材とし、「それぞれの建物でどんな職業の人が働いているか、自分や友達の将来の職業は何かなどを考えながら、職業を表す英語の表現に触れる」ことが活動目標であった。『活動プラン』に基づいて行われ、基本の流れである「Sit Down Game」「歌」「えいごリアン」「メインの活動」「文字(数)遊び」で展開されていく。英語を専門としない担任が『活動プラン』を参考にしながら進める授業は、どの子どもも意欲的で、とても楽しく進められ、まさに平塚市が目指している「子どもも教師も笑顔になれる外国語活動」であった。



授業風景1



授業風景2

**5 研修のまとめ(おわりに)**

平塚市では、緻密に検討された『活動プラン』に5年生・6年生それぞれ27プランが教材と共に用意され、どの教師も安心して楽しく授業ができるように編集されている。何よりも、コミュニケーションのとらえを明確にし、「外国語に慣れ親しむ=何度も繰り返し発音する」のではなく、子どもの「自分の思いを伝えたい、外国語を使って伝えたい」という意欲・態度を重視した「はじめは日本語でも次第に外国語で話したくなる」授業を工夫し、「英語とのすてきな出会い」を実現していた。